

〔巻頭言〕

## 誰でもできる養豚？

株シムコ 園 田 昭 浩

養豚業界の2017年を振り返ってみると、4年連続の高豚価に支えられ、多くの養豚家（企業）が高決算になったと思われま

すが、国内の疾病状況もPEDの再発、散発はあるものの、大きな広がりはなく、その他疾病は安定した状況ではなかったかと感じております。

このような状況の中、生産意欲のある養豚家（企業）は農場の整備として設備投資や増頭、またクラスター事業などを利用しながら、事業を拡大しようとしています。肝心の働き手が不足しており、今後もこの傾向は続いていくように思われます。

設備や待遇を良くしても管理する人が不足していたり、能力がなかったりしては期待した成績は望めないし、経営も安定してきません。やはり最も大事なものは人材です。

しかし、私も役職上、求人者の面接を行って

ますが、最近特に感じることは、豚に対する思い入れと養豚を職業としてやっていく志が薄い人が多いことです。今後の養豚はこれまでのような個人経営から企業経営に移行していく中、このような人材が増え、サラリーマン化し、設備の充実・均一化と養豚界にもいづれ訪れるであろうAI（人工知能）の利用によって、経験や知識がなくても誰でも豚の生産ができる日がくるような気がします。

このような将来図を描く中で、疾病が無い状態ならば、SPF農場は当然のこと、SPF農場に準じた衛生レベルの高い農場でも、高繁殖豚の能力を確実に発揮できることができ、設備の機械化、HACCPやJ-GAPの認証農場、AIによる管理システムなどを構築することで、いづれ専門知識を持つ人による飼養管理技術を必要としない時代が来るでしょう。